



Q ヘルプカード導入について

五伝木隆幸 議員

A ヘルプカード作成に向けて検討する

ヘルプカードは、障害や難病の方に必要な支援内容、緊急連絡先などを記載しておき、災害時や日常生活で困った時に、障害者等への理解や支援を求めるためのものである。

質問一 ヘルプカードの有効性は、障害者団体等からの導入の要望について。

三 県からの働きかけについて。
四 ヘルプカード導入に対する市の見解は。

答弁一（市長） ヘルプカードは、聴覚障害や内部障害、知的障害などの外見からは障害のあることが分かりにくい方が周囲に支援を求める際に有効である。

二 団体からの要望は特に聞いていない。

三 埼玉県は、災害時の高齢者や

障害者の支援のための、防災カードの導入を促している。

四 市では、平成23年5月から高齢者や障害者を対象に救急情報カードを配布している。緊急連絡先

などを記載した救急情報カードは、冷蔵庫の扉などに貼り付けて、緊急時の救急隊員などに活用される。

救急情報カードは、A5サイズで携帯に不向きなため、携帯できるヘルプカードの作成を検討する。

◎**その他の質問** 地方教育行政制度の改革について

Q 区画整理事業と地区計画について

漆畑 和司 議員

漆畑 和司 議員



A 平成31年度の事業完了を目指す

質問一 一本松土地区画整理事業の現状と今後の見通しについて。

二 一本松地区地区整備事業推進について。

ア 事業推進に当たっての現状及び問題と課題は。

イ 事業推進に当たっての職員の配置は。

ウ 今後の事業推進の見通しは。

答弁一（市長） 一本松土地区画整理事業の25年度末の進捗状況は、

仮換地指定は81・8割である。建物移転は252戸のうち229戸

が完了し、90・9割。道路の整備率は51・0割、污水管の整備率は

72・2割、事業費では80・8割の

進捗状況である。31年度までの事業完了に向けて取り組む。

二ア 地区内を六つのブロックに分け、5年計画で整備を行う。本年度は、Bブロックの下水道工

事を実施中である。道路用地の確保に当たり、関係地権者が非常に多く、交渉等に時間を要することなどが問題となっている。

イ 現在3人の職員で対応しているが、26年度もEブロックで交渉する地権者が約130人と多いため、事業の進捗に応じて、職員の配置を検討する。

ウ 関係地権者の理解と協力をいただけるよう交渉を重ね、31年度の事業完了を目指す。



整備予定の一本松駅前